

江南市地域福祉計画策定委員会 議事要旨

会議名	平成 29 年度 第 5 回 江南市地域福祉計画策定委員会	
日時	平成 29 年 11 月 20 日（月） 午後 2 時～	
場所	江南市役所 第 3 委員会室	
出席者	委員	石井 勇男、岩根 佐代子、倉知 榮治、柏原 正尚、澤野 康樹 永田 幸子、丹羽 義嗣、三ツ口 文寛、
	市職員	丹羽 鈺貢、貝瀬 隆志、平松 幸夫、大池 慎治
	社会福祉協議会職員	小塚 昌弘、福田 和広、伊藤 光洋、宮本 清隆
欠席者	内藤 昇彦、名倉 尚之	
議題	1. 地域福祉計画・活動計画素案について 2. その他	
資料	資料 1 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案） 資料 2 前回から追加した部分 参考資料 1 策定部会議事録 参考資料 2 策定会議議事録	

◆ 会議結果 ◆

1. 地域福祉計画・活動計画素案について

【第 1 章～第 3 章】

- ・資料 1、2 に基づき、事務局より説明がありました。
- ・参考資料 1 に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料 2 に基づき、事務局より説明がありました。
- ・会長より、用語集の「子育て支援センター」や「地域包括支援センター」、「基幹相談支援センター」などの用語や表現は、わかりやすく他の所と統一した方が良い、との意見をいただきました。
- ・事務局より、用語解説の内容は、現在策定している市の総合計画と合わせている関係で、ご意見をいただいても修正しづらい部分があるかもしれない事をご了承いただきたい、とのことでした。
- ・会長より、メインの用語集があつてそちらが動かないのであれば、それに合わせたほうが良いと思う、また福祉系の用語は難しすぎると市民にわかりにくくなる、との意見をいただきました。
- ・澤野委員より、19 ページ「地区の状況」、古知野地区に「高齢者のみ世帯も少なくなっています」とあるのは将来的に減少していくという意味合いなのか、というご質問をいただきました。これを受けて事務局より、他の中学校区との高齢化

率の比較でこういった表現をしたが、「減っていつているのではないか」という誤解を招きかねない表現だと感じたので見直します、とのことでした。

【第4章】

- ・資料1に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料1に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料2に基づき、事務局より説明がありました。
- ・倉知委員より、43 ページの重点取り組みの「地域における見守り」は、具体的に何を指すのか、区長や役員の任期は1年で引き継ぎも難しいが、誰がどうやるのか、というご質問をいただきました。これを受けて事務局より、市民と一緒に考えていけるような「啓発プログラム」を作りながら見守りを広げていきたいという意味で掲載した、との回答がありました。
- ・倉知委員より、市民が問題をどこに相談をするかというのはハードルが高く、民生委員がいればセンターにつながられるが、一般の方にはそれがわからなく、相談しようがない。民生委員も家庭には入りにくい場合もあるので難しい問題だと思う、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、「重点取り組み」にある「継続」や「検討」、「実施」がわかりにくいのではないか、プロジェクトの名前から想起されるようなわかりやすいものが、一番重点だとわかるような工夫が必要で、既にあるなら具体的な事業名を書くと実行性があるように見えて良いのではないか、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、「検討」は、既に社協や市で取り組みがあるものや、本当にやるのか、どうしていくかも含めて何年か「検討」している、という理解で良いのかとのご質問がありました。これを受けて事務局より、「実施」には完全実施も含まれ、100%できているものは「実施」、100%ではないものに関しては「検討」に含まれているという意味合いである、との回答がありました。
- ・会長より、最後の「ワンストップ」が一番肝なのではないかとのご意見がありました。今までそれぞれ聞かないとわからなかったことが、一箇所に全部集中され情報が得られて、次につないでもらえ、そのために研修や啓発があつて、専門職だけでなく地域の人とつながる、その接点をワンストップにしていきたいというのかなと書面からは理解をした、とのことでした。

【第5章】

- ・参考資料1に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料2に基づき、事務局より説明がありました。
- ・澤野委員より、53 ページの「市民が活動・交流できる場の提供」というのは具体的に何を指しているのか、というご質問をいただきました。これを受けて事務局より、具体的な事例として、高齢者や障害のある人の居場所づくりや、子育て家庭の交流などが具体的に書いてある、との回答がありました。懇談会の中で違う世代との交流が少ないという意見があつたが、将来的な理想像としては多世代の

地域での交流の場が作れるといいなと思っており、6年間の計画の中で具体的にそこまで持っていけるかどうか定かではないが、将来的な理想像としてはそういった地域まるごと交流ができるようなつながりネットワークといったものをつくれたらよい、という思いがあるとのことです。

- ・澤野委員より高齢者や障害者の居場所は既存のものを充実させ、その先は将来的に考えて具体化していくということと考えるよいか、とのご質問をいただきました。これを受けて会長より、地区ごとの取り組みに考え方が示されているので、これにあわせてやっていこうという指針になるといちばん良いと思うとのご意見がありました。頑張っけてやっていこうという地域もあれば、各世代間で交流できそうな所を重点的にしようという地域もあっても良いと思うが、江南市全体としてはそういう所まで見据えていると良いと思う、とのご意見をいただきました。これを受けて事務局より、まずは地域自体の人の意識を変えていくところから始め、人を育て教育をして活動者を増やしてといったものを積み上げていく中で、最終的に地域の中で多世代が交流できるようなネットワークをつくりたいと考えている、とのことです。
- ・会長より、できれば取り組みが進んでいるところがモデル的にみえると、それと比較して他の地域でも議論しやすいのではないかとのご意見がありました。地域にモデルがなければ、他の周辺自治体に視察に行くのもいいと思うし、意識して情報を集めようという気になるのが計画の柱になっているものだと思う、とのご意見をいただきました。
- ・丹羽委員より、文章で見ると、市と社会福祉協議会との両方で高齢者や障害者の居場所づくり、子育て支援だけは社会福祉協議会、それぞれがバラバラにやるように思える、とのご指摘がありました。これを受けて事務局より、もちろん市と社会福祉協議会が協働で地域の方向性を作り上げていく計画だと思っているのでそれぞれにやっていくことはないが、子育て家庭の居場所づくりに関しては市の「子育て支援センター」にママたちが来て悩み相談できる職員がいるという体制ができて一方、社会福祉協議会の取り組みはまだ薄く、ここに書けなかったというのが現状である、との回答がありました。今後の計画期間内の活動の中で社会福祉協議会も、そういった子育て世代の寄り集まった交流が持てるような行事もできればと思っている、とのことです。
- ・丹羽委員より、地域を中心にやろうということだと、かなりの数も場所も必要で、当然そこに関わる人たちを確保できる地域ばかりであるとは思えないので、そのあたりについても考えないといけない、とのご意見がありました。これを受けて事務局より、それぞれの地域での既存の団体が既にあるのかもしれないし、全く意識としてない地域があるのかもしれないが、ゼロからスタートしてく中で、地域ごとの差が出てきて当然ではないかという考え方もある、とのことでした。高い方のレベルに合わせて一足飛びに事業をやっていくというのも無理があるため、

各地域に合わせた施策を考えていかないといけない。各地域の状況を今後計画期間内にどんどん地域へ出て行って、ここはどのくらいの意識があるんだろうというように所も探りながら各地域の施策を、どのレベルまで展開していくのかというのも考えていきたい、との回答がありました。

- ・丹羽委員より、現在、実態が良く分らないような高齢者施設が散見され、見えないところで虐待があった等の話も聞くが、行政の目が行き届かなくなっているのではないかと心配である、とのご意見をいただきました。これを受けて事務局より、子育てに関しても、障害に関しても、民間の事業者が参入してくる可能性は充分にあると考えており、質の見極めがすごく大切であると思う、との回答がありました。各専門的な縦割り行政という弊害もあるが、それぞれの分野ではエキスパートであるため、その意見も聞きながら、事業者の見極めもきちんとしていきたいと思う、とのことです。
- ・倉知委員より、かつては数軒先までお隣の人が見ていてくれたが、今はお隣すらわからないし区長も情報はつかめないという状態で、地域で何かやろうとしても誰に声をかけていいかわからず、またかなり地域差もあるなど、様々な条件が絡んでくるので難しいと思う、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、担い手が同じなのに、市からも社会福祉協議会からも依頼があり、あちこち駆り出されて、やった感だけ出ていると言うのはたぶん勘弁してほしいと言う市民の意見が聞こえてきそうだが、それは連携し、少しでも分担して協働してやっていくところを探るというのもあるかなと思う、とのご意見をいただきました。
- ・石川委員より、64 ページ、”国では、「我が事・丸ごと」とあって、その次が”本市では”とすぐ下がってしまうため、愛知県の実情も入れてはどうかとのご意見がありました。これを受けて、事務局より、仕組みづくりや基本目標4の環境作り、そういったところで県レベルの広域の取り組みや動きがあれば、少し載せていくことも考えたい、との回答がありました。
- ・岩根委員より、54 ページ、「子育て家庭の居場所づくり」はこれだけなのかという質問がありました。江南市全体では福祉計画以外にも子育て計画があるので、そことの兼ね合いがあるだろうが、あと何年か先、高齢者のサロンや子育てのサロンがミックスされていく、そういった将来も見据えていくことが必要である。また、やはり皆様の意見を聞いても地域差がかなりあると感じるが、地区ごとの温度差を、計画の中で無理にひっぱらず叩かず、地区ごとの特徴を出してもらいながら進めていくのがこの計画では大事ではないかと思う、とのご意見をいただきました。
- ・会長より、サロンについても、大きなサロンのほうがいい人もいれば、小さいサロンで知った顔のなかでやりたい人もいるなど、地域や場所、定期・不定期、世代等様々な要望があるので、なかなかひとつでできないのが難しいところである

が、難しいからこそ、地域福祉計画は個別でつくっているの、全体を網羅してやっていく総合計画と整合を図りつつ、地域の実情に応じてつくっていくことが必要であるとのこと意見をいただきました。

【第6章】

- ・参考資料1に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料2に基づき、事務局より説明がありました。
- ・倉知委員より、総人口や世帯などのデータには、年度や出典を入れて欲しい、とのこと意見をいただきました。
- ・石川委員より、中学校区の掲載順に根拠はあるのか、というご質問をいただきました。これを受けて事務局より、教育委員会で管理をしている中学校の並びになっている、とのこと意見をいただきました。
- ・会長より、「高齢化率」のマークはこれでいいのか、違和感があるので、アクティブなものの方が良い、というご意見をいただきました。これを受けて事務局より、特徴のない人の形にするのであれば入れない方がいいと思うが、アクティブな高齢者、というものは難しいが検討する、との回答がありました。
- ・澤野委員より、60 ページ、「福祉を進める活動主体者への支援」について、悪く言うと、町内会というのは市の下請け機関、特に社会福祉協議会は集金機関というような面もあるが、なり手がいないというのは、執行者や役員は本音ではやりたくないということであるため、実のある町内会がある、そして何のために町内会に入るのかわかるように、関わりをしっかりと見据えて、方策を考えて実行してほしい、とのこと意見をいただきました。
- ・会長より、地区ごとにも違うので、どういう地区の単位で動くかも含めて皆さんで議論していただいたり、各地区がどういう状況かをお互い知る機会になったりと良い、とのこと意見をいただきました。
- ・事務局より、同じ意見を各地区の区長さんから聞くが、地域福祉計画の活動を進めていく中で、また何かやらされるのかということではうまくいかないとは分かっているつもりである、との回答がありました。地域によって町内会活動は温度差もあり、今後地域の中に入って懇談会などを通じた計画を進める中で、良い事例があったら他の地区に紹介したり、各町内会、民生委員の負担も考えながら進めていきたいと思う、とのことです。

【第7章、用語解説】

- ・参考資料1に基づき、事務局より説明がありました。続いて、参考資料2に基づき、事務局より説明がありました。
- ・永田委員より、112 ページの「計画の進行管理」のPDCAサイクルは基本的な項目としては施策で評価をしていくのか、重点プロジェクト、施策、さらに地域の方向性が入って、3項目とも評価されるのか、というご質問をいただきました。これを受けて事務局より、施策ごとの評価ができるかはまだ検討段階だが、全体

を通じた計画に載せている施策である以上は、評価しなければいけないと考えている、とのご意見をいただきました。

- ・永田委員より、もし評価されるのであれば、どのタイミングで何年おきに進行状況が発表されるというような記述が欲しいとのご意見がありました。地域包括支援センターも介護保険も目標設定をしているため、地域福祉計画と整合性を取ろうと思うが、地域ごとにどこまで進んだのかを発表していただかないと、整合性が取れていかないので、評価機関や評価年度などの記述が必要である、とのご意見をいただきました。それを受けて事務局より、評価の仕方、時期について記述するようにする、との回答がありました。
- ・石川委員より、111 ページの「(3) 財源の確保」のところは、財源があつての施策であり事業であるのだから、もう少し具体的に書くべきだと思う、とのご意見をいただきました。
- ・岩根委員より、110 ページの「地域福祉計画推進委員会（仮称）」の図、この並び方には意味があるのかとのご質問がありました。どうしても頂点に視点がいくので、ボランティア団体ではなく市民を上を持って来ていただきたいとのご意見がありました。
- ・会長より、図があつたほうが分かりやすいが、例えば市民とボランティア団体には差があるのか、地域組織は市民に入っているのか、といろいろ粗も探しやすくなるため、この図だけ一人歩きはしないように努力したほうが良いとのご意見がありました。
- ・会長より、計画の進行管理について、地域ごとに同じ評価をするのではなく、プロセスを大切にし、どのようにその地域が良くなったということを示した方がよいとのご意見がありました。地域は地域ごとに違っていいが、ただ市としてはやはり一定の水準がどうなのか、というのはどこかの指標で比べてもらうということをやっていただく役割があつてもいいと思う。1年とか3年などでPDCAをやっていかうとして、大きな動きだと次の改善が難しかったり、早すぎるとそのために資料を作るのが大変だったりあると思うので、市全体としては少なくとも年に1度ぐらいはチェックされると思うが、地区ごとは工夫して緩やかに記録だけは残っていくなどでも良いような気もする、とのことでした。

2. その他

- ・地域福祉推進シンポジウム

平成30年1月14日（日） 13:00～15:30

江南市民文化会館 小ホール

講師 北折 一（元NHKためしてガッテン演出担当デスク）

—終了